

## 抄 所歸人法

## 一．題意

真宗の歸命(信心)の対象は名号か仏体かという問題を考察して、阿弥陀仏は誓願の名号となって働かれる以上、名体不二の名号が歸命の対象であることを明らかにする。

## 二．出拠

## (一)信心の対象を阿弥陀仏とする文

『教行信証』「行文類」 歸二命無量寿如来一 南無二不可思議光一(全 2-43)

されば信心といへるそのすがたはいかやうなることぞといへば、……、一心にもはら弥陀に歸命せば如来は光明をもってその身を攝取して捨てたまふべからず(『御文章』一帖十三通、註 P1103)

## (二)信心の対象を名号とする文

『大經』本願成就文 聞二其名号一 信心歡喜(全 1-24)

この南無阿弥陀仏の名号を南無とたのめば、かならず阿弥陀仏のたすけたまふといふ道理なり。『御文章』一帖十五通(全 3-423,註釈版 P1106)

三．<sup>しゃくみょう</sup>釈名：「釈名」とは、名目(教義概念)を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

- ア)「所歸」とは、歸命(信心)の対象をいい、「人」とは仏体を「法」とは法体名号を言う  
イ)「所歸人法」とは、歸命の対象が仏体か名号かという問題である。

四．<sup>ぎそう</sup>義相(教科書は整理が出来ていないから、理証と文証に分離して記載した)。

## (一)浄土真宗の歸命の対象となる名号と仏体とは一体である。これを名体不二という

(理証)ア)阿弥陀仏は自らの正覚の果徳の全てを名号に込めて回施されるのであるから、衆生に聞信される名号には仏体に属する果徳の全てが込められている。

よって、名号が仏の正覚の全てである(Ref 註巻末註 P1541)。

(文証)イ)成就文の聞其名号の其は、「第十七願(成就文)」の無量寿仏の威神功徳の不可思議なるをほめ称えることを指すから、所歸は、名体不二の名号である。

(二)しかし、いずれを主とするかを問えば、名体不二の名号を主とする。

成就文に謳われる信心歡喜の直接の対象は名号だからである。

## 五．結び

ア)浄土真宗の歸命(信心)の対象は、名体不二の名号である。

イ)しかし、いずれを主とするかとすれば、成就文に謳われた名号を主とする。

以上